

四谷地区における区立小学校の通学区域の見直しや緩和等の検討に係る意見募集結果

2. 質問と回答（要旨）

連番	区分	質問（要旨）	回答（要旨）
1	1.見直し全般について	通学区域が変更になった場合に、絶対にその通学区域の学校に通学しなければならないのでしょうか。	指定校でない学校にも行けるよう緩和策も予定しています。
2	1.見直し全般について	なぜ、2025年度（令和7年度）から通学区域の見直しを実施するのでしょうか。 四谷小学校の増築棟建設工事を決める前に、通学区域の変更についての検討はなかったのでしょうか。	四谷小学校の児童数の増加への対応として、可能な限りこれまでの通学区域を大切にするとともに、普通教室不足を解消するため、増築校舎の建設を優先して取り組んできました。 しかし、四谷小学校は増築校舎が建った後も、校庭や体育館のスペースは拡張することができませんので、教育環境の向上を図るため、今ある教育財産を有効に活用する対応として、通学区域の見直しの検討を始めました。 実施時期については、今後の検討の状況にもよりますが、早ければ今年度末までに方向性を決め、令和六年度に一年かけて周知し、令和七年度にご入学のお子様から適用となる予定です。
3	1.見直し全般について	通学区域の見直しは、いつ、どこで決定されますか。	今後方向性がまとまれば、その後、教育委員会が検討協議会の検討内容を踏まえ、決定を行います。
4	1.見直し全般について	四谷小の教育環境に不都合が生じている以上は、通学区域を変更した方が良いと思っているが、その不都合の部分を具体的に発信してほしい。その方が（見直しへの賛同を得られる）効果があると思う。 今後、対応をしなければ、さらに状況は悪化すると思う。	増築校舎が建設されるまでの間においては、児童数に対してトイレの個数が充分でないといった課題があり、児童の利用がなるべく重ならないよう、休み時間帯をずらすなどの工夫を行っています。また、休み時間の校庭等の利用についても、学年による利用調整を行っています。 なお、増築校舎の完成後においては、普通教室数やトイレの個数などは充足するものの、校庭等の広さは変わらないため、利用上の工夫は今後も必要となります。

四谷地区における区立小学校の通学区域の見直しや緩和等の検討に係る意見募集結果

2. 質問と回答（要旨）

連番	区分	質問（要旨）	回答（要旨）
5	1.見直し全般について	通学区域の見直しの効果がなかったら、どうするのでしょうか。	花園小学校については、検討協議会や、このたびの地域説明会・意見募集でいただいたご意見を踏まえ、校庭へのフェンスの設置や校内学童クラブの設置に向けて、現在、具体的な検討・準備を進めています。また、教育活動の充実も継続して取り組んでおり、今年度・来年度と区の「教育課題研究校」に指定され、基礎体力の向上をテーマに様々な活動を実践しています。さらに放課後には、クリアソン新宿による「走り方教室」なども実施しています。今後も花園小学校の魅力向上に努めてまいります。
6	2.検証資料・通学区域の分け方について	検証資料には、四谷小学校と花園小学校の現行と見直し後の学級数が書いてありますが、この見直し後の数は実際対象となる地域に住んでいる子供の人数を住民票などで照らし合わせたものなのでしょうか。	児童数の推計の考え方は、現在把握している住民基本台帳登録人口と、過去の就学率等を加味して予測しています。なお、児童数の推計には大規模マンションや中規模マンションの影響や人口の増加率も反映しています。
7	2.検証資料・通学区域の分け方について	検証資料では中学校との境界を課題として挙げていましたが、実際の通学状況はどうなのでしょう。進学する割合が少ないのであれば、考慮として不要なのではないでしょうか。	区立小学校から区立中学校への進学にあたっては、友人関係や通学距離などが大きな要因となっていることから、今回の通学区域の見直しを検証するにあたって、中学校区との整合性を図ることは大切なことと考えています。
8	2.検証資料・通学区域の分け方について	通学路の安全を考えて四谷小学校の通学区域（四谷坂町）にマンションを買った。マンションの半分がファミリー層である。周辺ではマンションの建て替えも進んでおり、ワンルームが多い。そういった土地柄で、なぜ四谷坂町が検証に入っているのでしょうか。	検証資料1～8は他の小学校と隣り合っている地域について、仮に通学区域を変更した場合の中学校区との兼ね合いや、通学距離などの課題を検証するための資料として作成したものです。

四谷地区における区立小学校の通学区域の見直しや緩和等の検討に係る意見募集結果

2. 質問と回答（要旨）

連番	区分	質問（要旨）	回答（要旨）
9	2.検証資料・通学区域の分け方について	検証資料4（四谷四丁目+富久町8番・9番を富久小学校へ変更する）について、「中学校の通学区域との不一致」とはどのようなことでしょうか。	富久小学校で一緒だった同級生の多くが「新宿中学校」に進学する一方で、この検証資料4の地域（（四谷四丁目、富久町8番・9番）については「四谷中学校」が通学区域の学校になるため、（学校選択をしない場合は）進学先の中学校で多くの同級生と別れてしまうということです。
10	3.緩和策について	今後、海外転出の予定だが、3年後帰国した時に四谷小学校に入れますか。上の子がいないと厳しいのでしょうか。	希望があれば四谷小学校に通えるように通学区域の変更に伴う緩和措置も検討しています。
11	3.緩和策について	通学区域変更の対象地区の子どもは、選択すれば永遠に四谷小学校に通えますか。向こう6年間など条件を付けるのが妥当ではないでしょうか。	緩和策の条件については今後検討協議会にて検討していきます。
12	3.緩和策について	2025年度（令和7年度）からの通学区域の見直しは急すぎます。2025年に校舎が足りなくなるのでしょうか。	通学区域の見直し時期が2025年度（令和7年度）からとなった場合、現在の推計からすると、増築校舎を利用できるのが2025年度（令和7年度）の2学期からのため、1学期においては、現在の普通教室数では不足することから、教室の転用を予定しています。

四谷地区における区立小学校の通学区域の見直しや緩和等の検討に係る意見募集結果

2. 質問と回答（要旨）

連番	区分	質問（要旨）	回答（要旨）
13	3.緩和策について	対象地区の児童は四谷小学校・花園小学校を選べる前提で考えた結果、両校のバランスが変わらなかつたらどうするのでしょうか。	花園小学校については、検討協議会や、このたびの地域説明会・意見募集でいただいたご意見を踏まえ、校庭へのフェンスの設置や校内学童クラブの設置に向けて、現在、具体的な検討・準備を進めています。また、教育活動の充実も継続して取り組んでおり、今年度・来年度と区の「教育課題研究校」に指定され、基礎体力の向上をテーマに様々な活動を実践しています。さらに放課後には、クリアソン新宿による「走り方教室」なども実施しています。今後も花園小学校の魅力向上に努めてまいります。
14	3.緩和策について	緩和策を行った結果、元の小学校を希望する人が多かった場合は、緩和策を制限する予定はありますか。	四谷小学校は、令和7年度の2学期から増築校舎を利用することにより普通教室数が31教室となり、教室が不足することはありませんので、緩和策を制限する予定はありません。
15	4.環境整備・魅力向上について	四谷小学校の児童を減らすというより、花園小学校の児童を増やすことを考えた方が良いでしょう。	連番13の回答と同じ

四谷地区における区立小学校の通学区域の見直しや緩和等の検討に係る意見募集結果

2. 質問と回答（要旨）

連番	区分	質問（要旨）	回答（要旨）
16	5.周知・説明について	大木戸こども園での説明会は実施されたようですが、対象エリアの全住民に分かるように周知なされたのでしょうか。	今回の通学区域の見直し検討に係る意見募集や地域説明会の実施については、広報新宿、区ホームページやSNS、各特別出張所や区立図書館、本庁舎の関係窓口にて広く周知させていただきました。また、地域説明会にてご意見をいただくとともに、小学校の保護者へは学校だよりでの周知や未就学施設の保護者へは、お知らせを配布するなどの周知をさせていただきました。なお、大木戸こども園などご要望をいただいた未就学児施設については、個別に説明会を開催させていただきました。
17	6.四谷ひろば等の活用について	3学年だけ旧四谷第四小学校（現：四谷ひろば）を使うことはできないのでしょうか。	四谷ひろばは、利用者が多いため、その利用を停止するか、もしくは代替施設を作らない限り学校としては使えません。また、新たな学校の開設については、現在の教員自体が足りない状況下では教員の配置が難しいと思っています。教員は東京都の採用になるため、区で採用することはできません。こうしたことから新たな学校の開設は現実的ではないと認識しています。
18	6.四谷ひろば等の活用について	四谷ひろばを学校に使えないのでしょうか。	四谷ひろばの活用に関しては、通学距離が長くならずに、受入可能な学校があるので、まずはそちらを活用することを優先させていただきたいと考えています。また、四谷ひろばの活用に関しては給食調理室などの施設修繕や、教職員の確保などの課題があると認識しています。

四谷地区における区立小学校の通学区域の見直しや緩和等の検討に係る意見募集結果

2. 質問と回答（要旨）

連番	区分	質問（要旨）	回答（要旨）
19	6.四谷ひろば等の活用について	旧四谷第四小学校（四谷ひろば）の一部を四谷小学校の校地として活用するための陳情の状況はどうなっていますか。	陳情については、現在区議会において継続審査とされています。
20	8.その他	対象となる地域に子供が住んでいないと意味がない。そして、見直しをして通学区域を狭くしても、四谷小学校の近所に子供を含む家族が引っ越してきたらどうしようもないため、学校の増築や校庭・体育館の問題に力を入れたほうが良い。プールは難しいと思いますが体育館のような大きいホールはつくれませんか。	普通教室については、令和7年度の2学期から増築校舎の完成により普通教室数が31となり教室数が不足することはありませんが、敷地の制約もあり校庭や体育館については新たに増設することは難しい状況です。なお、増築校舎の建設工事に伴い、校庭の一部の利用が制約されていることから、コモレ四谷の中にある四谷スポーツスクエアを借用して、学校が体育の授業やクラブ活動で使いたい時に利用できるように関係部署と調整しながら、子供たちの教育環境を確保するように取り組んでいます。
21	8.その他	四谷小学校のみ学級数が増加する要因はどういった理由が考えられるのかご教示下さい。	四谷小学校の地区では、様々な建物が建て替えられ、ファミリー世帯向けの住戸を含めたマンションなどが多く建てられるようになり、転入者が増加しました。 一方、花園小学校の地区では、商業ビルが多いこと、ファミリー世帯向けのマンションより、単身や二世帯を想定した規模のマンションが多く作られているといった背景があると思います。

四谷地区における区立小学校の通学区域の見直しや緩和等の検討に係る意見募集結果

2. 質問と回答（要旨）

連番	区分	質問（要旨）	回答（要旨）
22	8.その他	"しがらみ"や"三校統合時の約束事"について具体的な内容をご教示下さい。	意見募集の説明資料15・16ページの「これまでの検討協議会での主なご意見等について」で記載のある、「しがらみ」とは四谷小学校が統廃合によって開設するまでの様々な経緯などのことで、「三校統合時の約束事」とは、「当時、通学区域は守られる」という話があったと検討協議会委員から発言があったものです。
23	8.その他	四谷四丁目、富久8番・9番は地図上では四谷小学校よりも富久小学校や花園小学校の方が通学距離が短くなるが、現状でより遠い四谷小学校が区域とされている理由は何ですか。	現在の四谷小学校は、統廃合前の四谷第一小学校、四谷第三小学校、四谷第四小学校の三校が統合された学校になります。当時の三小学校の通学区域が合わさり、現在の四谷小学校の通学区域になっていますので、地域によっては通学距離が隣接する小学校に比べ長くなっています。
24	8.その他	現在建設中のタワーマンション建設に伴う、通学児童の増加について考慮されているのかは明らかにした方が良い。	推計にあたっては、学校ごとの児童数の増加実績や大規模マンションの建設予定等を反映して算出しています。
25	8.その他	通学区域外ですが四谷小学校を希望することはできますか。	指定校変更制度には、様々な要件があるととも、それぞれの受け入れ先の学校の状況を踏まえて判断することになります。現在、四谷小学校においては教室環境等により通学区域外からの児童を受け入れる余裕がないため、指定校変更は兄弟が在籍している場合などに限定させていただいています。 なお、今回の見直しで、通学区域が変更になった場合においては、対象地域にお住まいの保護者やお子さんに負担が生じないようにするため、元の通学区域の小学校を希望すれば通学できるようにしたいと考えています。

四谷地区における区立小学校の通学区域の見直しや緩和等の検討に係る意見募集結果

2. 質問と回答（要旨）

連番	区分	質問（要旨）	回答（要旨）
26	8.その他	新宿区の教育行政は住宅政策や建築政策と連動していますか。	区内の民間開発計画等に関して、庁内で設置されている連絡調整検討会の中で情報共有しています。また、事業者との事前協議（計画に伴う小中学校の学齢人数の予測等）についても必要に応じて実施しています。
27	8.その他	花園小学校の通学区域では家族で住める住宅建設を促す政策が議会や行政でしっかりされていますか。	区では「新宿区住宅マスタープラン」において住宅市街地整備の方針を定めており、その中で地域の特性を捉えながら、住宅まちづくり施策を展開しています。花園小学校の周辺は「都心居住推進地区」に位置付けられており、住・職・遊が近接し、業務商業施設と複合した利便性の高い集合住宅等の整備を誘導していますが、ファミリー世帯向けの住宅に限定しているものではありません。
28	8.その他	現在の花園小学校と四谷小学校の町別の児童数を教えてください。	別紙データ①のとおり
29	8.その他	今後入学予定の0歳から5歳の町別人数は把握していますか。	別紙データ①のとおり
30	8.その他	現在の越境通学の人数を教えてください。	越境通学（指定校変更）の人数は、令和6年1月4日時点で、花園小学校は38人、四谷小学校は29人です。
31	8.その他	児童の家族構成（親や家族が卒業生か、持ち家か賃貸か）のデータは持っていますか。	児童の家族構成（親や家族が卒業生か、持ち家か賃貸か）については教育委員会事務局で把握しておりません。
32	8.その他	四谷小学校の児童が増え続けると、学校生活にどのような支障が生じますか。	増築校舎の完成により、普通教室数の確保はできますが、校庭やプール、体育館等の施設は拡張されないため、現在の利用状態が継続することから、運用上の工夫が今後必要となります。
33	8.その他	花園小学校の児童が減り続けると、学校生活にどのような支障がでますか。廃校になってしまうのですか。	現在、廃校は想定していませんが、一定規模の集団による教育活動が困難になるといった課題が生じます。

四谷地区における区立小学校の通学区域の見直しや緩和等の検討に係る意見募集結果

2. 質問と回答（要旨）

連番	区分	質問（要旨）	回答（要旨）
34	8.その他	四谷小学校に子どもが多い理由は何でしょうか。また通学区域が広いこと以外で四谷小学校が保護者に選ばれる理由はありますか。	四谷地域では建物の建て替えの際に、ファミリー向け住戸のマンションが増えているといったことが理由に挙げられます。保護者からのご意見では、四谷小学校は比較的新しい学校のため、設備が整っていることから安心してお子様を通学させられるというお声をいただいています。
35	8.その他	花園小学校の子どもの数が少ないのは、他校に越境してしまうからなのでしょう。少人数学級が良いから、他校から花園小学校に越境して通っているという話も聞くが。	指定校以外の学校に通っているお子様の人数は、他校と比べて大きな差はありません。ご質問のとおり少人数の良さや通学距離などの理由で通学区域外から花園小学校へ通っているお子様もいらっしゃいます。
36	8.その他	花園小学校の児童数が少ないのはなぜでしょうか。	児童数の違いは、まずは通学区域の広さによります。 花園小学校は、四谷第五小学校、四谷第七小学校の2校が統合した学校であり、一方、四谷小学校は、四谷第一小学校・四谷第三小学校・四谷第四小学校の3校が統合した経緯があり、四谷小学校の方が広い通学区域となっています。 また、花園小学校は主に商業地域のエリアになっていることも、人口の違いの要因となっています。
37	8.その他	花園小学校の児童数が少ないことのデメリットは何でしょうか。	クラス替えができないことや、友人関係が限定されるといったことが挙げられます。少人数の濃密な人間関係の中でお子様が育まれるメリットもありますが、友人関係で行き詰まった際に、クラス替えなどで対応できないことから、保護者からは、クラス替えができる環境を求めるお声もいただいています。

四谷地区における区立小学校の通学区域の見直しや緩和等の検討に係る意見募集結果

2. 質問と回答（要旨）

連番	区分	質問（要旨）	回答（要旨）
38	8.その他	通学区域の変更により、元の小学校を選択した場合のデメリットはありますか。	不利益は特になくとも認識していません。地域の方から、地元のお祭りなどの参加に支障がないように、学校行事については、配慮してほしいとの要望をいただいておりますので、学校運営の中で考慮していく必要があると考えています。
39	8.その他	意見募集の説明資料3ページにある「教室上限数」について、この上限数に達することへの危機感というのは、どれほどのものでしょうか。	児童数の増加に対応するため、これまで学校内の会議室や生活科室などを普通教室に転用するための工事を行ってきましたが、教室上限数に達すると、それ以上の対応が厳しくなります。そのため、教室上限数を超えることに対しては、危機感を持っていますので、児童数の動向には注視しています。
40	8.その他	今後竣工する四谷四丁目のマンションは今回の推計に入っていますか。	四谷四丁目のマンション（約280戸）の建築計画は、児童数の推計に入れています。
41	8.その他	学級数と児童数の関係は、どのようになっていますか。	35人学級の導入により、現在は1クラス35人で編制しています。 令和5年度は、小学校1～4年生において35人学級で、令和6年度は5年生まで、令和7年度で6年生までと、全学年が35人学級編制となります。 35人を1人でも超え、1学年36人になった場合には、1クラス18人ずつ2学級の編制になります。

四谷地区における区立小学校の通学区域の見直しや緩和等の検討に係る意見募集結果

2. 質問と回答（要旨）

連番	区分	質問（要旨）	回答（要旨）
42	8.その他	四谷小学校からかなり離れた地域に住んでいるが、平成19年に四谷小学校が開設された当時、四谷四丁目は距離的にも花園小学校の通学区域に編入という考えはなかったのでしょうか。	まず平成7年に四谷第五小学校と第七小学校が統合して花園小学校ができ、その後、四谷第一小学校・四谷第三小学校・四谷第四小学校の統合で四谷小学校ができました。当時は「花園小学校や四谷第六小学校も含めて考えるべきではないか」といったご意見もありましたが、ご指摘のような通学区域の変更については考慮されませんでした。
43	8.その他	四谷地区内の小学校について、それぞれの特色や魅力について、資料などの提供があるとありがたい。	教育委員会事務局では、毎年、学校案内冊子を作成しています。区のホームページにも掲載し、学校の特色や魅力などを発信しています。また各学校では学校公開を年2回開催しており、各学校の特色や魅力をお伝えしており、区の広報等で開催のご案内を行っています。
44	8.その他	意見募集の説明資料に記載している他に、四谷小学校の保護者などから、不満やクレームなどはありますか。また、何か校庭等の利用の制約はあるのでしょうか。	四谷小学校では、日ごろから運用面での工夫をしながら学校運営をしており、特に保護者の方からの施設面でのご意見などはいただいておりません。校庭の利用については、学年によって、休み時間とモジュール授業（15分）の時間に分けるなどの工夫を行うことで、利用の分散を図っています。また、今年度の運動会は金曜日と土曜日の二日制としました。金曜日は児童が他の学年の競技を見られるように全校児童のみで行う日とし、土曜日は保護者参観で行う日とし、二日に分けて開催しました。なお、保護者参観の日は、混雑を回避するため、低学年・中学年・高学年での入替え制とするなどの対応を行っています。

四谷地区における区立小学校の通学区域の見直しや緩和等の検討に係る意見募集結果

2. 質問と回答（要旨）

連番	区分	質問（要旨）	回答（要旨）
45	8.その他	四谷小学校の学童クラブは、現在、保健センターに移動しているが、増築校舎が建設された後は学校へ戻りますか。	<p>四谷小学校には学童クラブはございませんが、放課後の居場所として、放課後子どもひろば事業を実施しており、保護者の方が就労等されている場合は、学童クラブ機能付き放課後子どもひろば「ひろばプラス」でお子様をお預かりしています。</p> <p>現在、四谷小学校では、十分なスペースを確保できないことから、令和5年度から四谷保健センター内の活動室も利用しており、令和6年度からはこれに加え、四谷小学校向かいの全国クリーニング会館1階を活動室として利用する予定です。</p> <p>増築校舎完成後は学校施設等の利用状況を踏まえ、校内での活動場所を確保することができるように検討してまいります。</p>
46	8.その他	通学区域を変更した場合に令和11年以降に花園小の教室上限は超えないのか。	<p>今後の児童数の予測は、住民基本台帳登録人口と、過去の就学率等を加味して推計しています。出生状況に加え、転入・転出状況も児童数の推計に大きな影響を及ぼすことから、未就学人口の動向に注視しながら、必要な教室数の確保に取り組んでいます。</p>